

# 揖保川流域委員会

## 第2回 情報交流分科会 議事録（概要）

日 時：平成15年1月27日（月）9時30分～12時30分

場 所：龍野市 龍野経済交流センター 1F ギャラリー霞城

出席者：委員5名、河川管理者2名、傍聴者25名

### 1. 分科会間の情報共有

1月21日に開催された治水・利水・自然環境分科会の情報共有として、引堤事業についての資料説明が河川管理者より行われ、これに対する質疑応答が行われました。

#### 委員からの主な発言

引堤に関する情報は、これまでに直接的に地域に出したことがあるのか。

（河川管理者による回答：以下「回答」とする）現在、姫路市興浜地区で事業を進めており、用地買収に先立ち事業説明をしている。実際に事業着手をしていないところ（御津町、龍野市、新宮町、山崎町）については今回のような詳細な図は出ていない。

ダムで洪水調整をする場合に引堤される河川敷の幅が、地図上に緑の線で書かれているが、上流にダムをつくる計画はあるのか。

（回答）現在、引原ダムが整備されており、工事实施基本計画の中では、それ以外にダムをつくるという前提で流量が設定されている。

龍野市の河口から13.0km地点の河川幅が狭くなっており、現在は、畳堤という特殊堤がある。畳堤で水がせき止められるということで、今の堤防があると思うが、さらに引堤をして流量を確保する必要があるのか。

（回答）引堤事業をしても、右岸側は特殊堤というかたちそのものは変わらない。左岸側は川幅を広げなければ、計画高水流量を流すことができない。

ダムをつくるかつくらないかで、それぞれ引堤事業がこうなるということが示されているが、ダムによる方策以外の調査を河川管理者の方で行っているのか。

（回答）堤防の嵩上げ、河床掘削等いろいろな方法の組み合わせで決まってくるが、現時点では今回示した引堤が現実的な案と考えている。ただし、流域委員会で議論をしていく内容なので、これが決定した案ということではない。

下水道の流出係数のように、市街地ができていくことによって、流出する水量が変わっていくといったことは計算されているのか。それとも都市のかたちが変わっても、 $3,300\text{m}^3/\text{s}$ （竜野地点の計画高水流量）は変わらないということか。

（回答）下水道の計画や都市河川の場合、都市開発の状況が流出条件として大きく変わるが、揖保川の場合、流域全体から見ると、開発はほとんど影響しておらず、今後の開発見込みのようなものも想定しているわけではない。

これまでの大洪水で、龍野の川が非常に狭くなっている区間でも水が溢れずにすんでいるが、その時の水量は100年に1回の水量なのか。そうでなければどれぐらいなのか。

（回答）昭和45年の洪水のときに竜野地点で $3,017\text{m}^3/\text{s}$ という数字が出ており、これが戦後では一番大きく、大体30年に1回ぐらいの規模の洪水になる。昭和51年洪水の流量はもっと小さく、竜野地点で $2,256\text{m}^3/\text{s}$ となっている。昭和51年の方が土砂災害を含めて記憶に大きく残されているかもしれないが、竜野地点ではこの数値になっている。

ダムをつくる計画について地元から強い要望はあるのか。

（回答）工事实施基本計画の中ではダムを設置する前提で流量配分を行っているが、現在ダム事業について何か行っているわけではなく、地元から要望が出ているわけではない。

林田川では、堤防上の道路をもう少し広げると車が交差しやすくなる。引堤等の事業をする時

は、交通の便がよくなるように拡幅できればと思う。

(回答)堤防のすぐ横が道路になっているところで、引堤や堤防整備を行う際は道路管理者(県や市町村)と調整して、事業を合併で施工している。そのときに、市道の拡幅等がない場合は、元の機能を回復するというで現道の幅で事業を実施している。

## 2. 住民意見把握の進め方について

住民意見把握の進め方について意見交換が行われ、次のことが決まりました。

- ・河川整備計画(原案)の作成前に、住民意見把握のための集会を上流部、中流部、下流部で、1回ずつ開催する。
- ・集会の開催時期は、今年の春頃とする。
- ・集会の開催場所は、上流部 - 山崎町、中流部 - 龍野市、下流部 - 姫路市網干区または御津町とする。
- ・集会開催に先立ち、集会への参加者の公募を含め、広く住民から意見を募集する。
- ・上流・中流・下流部で行うそれぞれの集会は、地域特性を反映したテーマを設定する。

### 委員からの主な発言

#### < 住民意見把握の方法について >

住民意見を把握するための公聴会などはあくまで試行ということでよいか。規約第2条に「関係住民意見の反映のあり方について意見を述べることを目的とする」とある。例えば公聴会やシンポジウムの実施後、その実行に関する提言を河川管理者に行い、実際に実施するのは河川管理者ということでもいいのか。

(庶務の説明)委員会の目的は、河川法に基づき河川整備計画(原案)に対する住民意見把握の方法を河川管理者に対して提言することとなっている。しかし、原案の作成前に住民意向把握をする場合、位置づけは試行となる。その実施は委員会が行うこともできるし、河川管理者にお願いすることもできる。

今までの委員会での発言からも、やはり上流・中流・下流でそれぞれ思いが違うと感じる。特に、引堤やダムに関して多くの議論が出てくると思う。「揖保川流域について何か話をしましょう」では、おそらく意見が分散してしまうので、引堤やダムなどを話題として取り上げれば、的を絞りやすい。

的を絞れる話題がそれぞれの地域に分散していればやりやすい。例えば、中流域、下流域では引堤の問題があり、上流ではダムがある。例えば植生の問題などある程度幅広いテーマの中にそれぞれ地域ごとの問題を入れて、それに関心を持っている方を公募するというのも考え方としてある。

多くの公聴会は聞くだけで終わっているところが多いと思われる。それよりはシンポジウムで何かテーマを決める方法がある。例えば、「ダムと植生」、「引堤」などのテーマがある。引堤については、山崎町、龍野市、御津町などで計画されており、どの地域にも関係があり、そこから環境、治水、利水に話が発展していきやすいテーマではないか。例えばフォーラムをする場合、何か1つテーマを決めなければ、分散された散漫な意見聴取になってしまう。

1点目に散漫にならないようにテーマをある程度押さえておくということがある。2点目は、地域住民の方々の積極的な参加を促す手法が必要である。3点目は、そこで交わされた意見がいかに反映されるかについて明確に道筋をつけておいて議論を始める必要がある。この3つを押さえるためには、公聴会では聞きっぱなしになる可能性が高く、最低3か所でシンポジウムを行う方法も有意義だと思う。

林田川流域でも意見聴取を行うことは考えられないか。比較的規模の大きな支川で、揖保川本川とは河川の状況が異なる。

上流では引堤もあるが、おそらくダムの問題が出てくる。中流は少し独特で、下流からは自然を残してほしいなどの要望が強いと思う。そういう認識からいくと、林田川は下流の方に近く、例えば林田川流域の住民の方は下流の集會に参加していただき、ディスカッションをするというやり方もあるのではないか。その中で林田川では独特の何かを持っているということがわかれば、再度考えていくということではどうか。まずは実施することが先ではないか。(河川整備計画の原案が出される前の意見把握は3回実施し、)原案が出された後の意見聴取は3回以上しなければいけないのではないか。原案が出ることによって具体的な議論のテーマが明確になってくると、実施回数はさらに増え、住民の皆さんのお話を伺うというよりも一緒に議論をする場が必要になってくる。

#### < 住民意見把握の集會の参加者について >

流域委員会のメンバーが最低でも1~2人は出席し、委員会の活動説明をし、河川管理者からは、新しい河川法に基づく河川整備計画の策定について説明が必要。一般の方で発言を希望される方は、ニュースレターの中で募集する方法がある。それに加え、委員がこれまでの委員会で共有してきた損保川の情報、例えば、竜野地点の計画高水流量や洪水に関するシミュレーション等の説明が必要で、当然ながらしっかりと住民に発信していかなければならない。

1つの方法として、地元で川の活動や環境の活動をされている方に、委員が声をかける方法があり、もう1つはニュースレターもしくはホームページで意見を公募し、テーマごとに絞って意見を述べていただく方法がある。また、これまでに流域委員会にいただいている意見を整理し、議論ができるような取り出し方をしていく方法もある。

まず地域住民の人たちから参加者の公募も含めて意見を伺い、その意見の中からピックアップをする。公募をする手段として、ニュースレターとか新聞折り込みを使って募集する。それから本人に参加の意志を確認し、その中から参加していただく方々を選ぶという手順になると思う。

住民の意見が今までに出されており、今後も出てくると思う。それから、傍聴されている方の発言された今日までの意見もある。今後これらの意見をどのようにつなげていくのかを整理しておかないと、意見を送りっぱなしということになってしまう。

住民意見の把握として、公聴会等に参加できなくても反映できるような、間接的な手法は考えられないか。

会の運営の主導をだれがするのかということを考えておかなければならない。委員会で主体的に関わる委員の選定をし、委員に依頼して上流・中流・下流それぞれ三様のやり方で実施してもよいかと思う。

#### < 集會のテーマについて >

上流ではダムの問題、森林の問題が川にかかわってくる。さらに治水といったキーワードがある。

ダムや森林について、国土交通省の直轄管理区間の上流の場合はどうなるのか。

地域住民は管理者が誰かを認識していないと思うので、河川整備計画の原案に盛り込めないからということで議論にふたをすると、非常に範囲が狭くなってしまう。

この流域委員会は国土交通省の委員会としてやっているわけだから、その考え方が河川全体に流れていくということを希望するしかない。流域の中にこういう声があるということが出てくれば、どの行政部局であっても聞かざるをえないのではないか。

山崎の方ではテーマとしてアユ、漁業が入ってくる。利水面で漁業は大きな問題で、漁業の話から水質の問題、水量の問題へもつながる。逆に言えば、ダムでの水の調整が漁業に影響するという話も出てくるかもしれない、といった具合に話が広がってくればよいと思う。一般住民の方から、川について持っている意見をどれだけ出してもらおうかの試みとして実施してはどうか。

中流では、引堤の話が当然関わり、もう1点は、河川敷の公園や、人が河川に近寄れるような場所をつくるといったことも付加的なテーマの1つとしてとらえられる。

引堤の話は、治水・利水・環境に最も関わっており、流域地域住民の方の関心も高く、生活面や環境面に重大な影響を及ぼす恐れもある。このテーマは上・中・下流共通の話題として提供できるのではないか。

下流では、林田川の水質の問題を絡めていけば、多くの意見が出るかもしれない。さらに、河川整備が交通や地域整備とどう絡むかという問題も、中流部から下流部で関わってくると思う。また、感潮域の自然の保全も、揖保川の特徴として取り上げれば非常におもしろいテーマとなる。

播磨灘の漁業に揖保川が与える影響は大きく、この委員会でも何度か議論になっている。この議論をどこでするかということになると下流のテーマではないかと考えている。漁業の問題を、上流・中流・下流できちんと切り分けるのは難しいが、下流の人に上流の意識を持っていただくのが重要なポイントになる。海の漁業の話は、流量の話につながり、川の栄養、環境の話につながるといったかたちで話題が広がり、川について深く議論ができるようになる。これが大切なところだと思う。

上流と下流の交流については、仕組みの問題から始まり、どのような交流をしていくのか、なぜ交流をするのかという具合に発展していくところがたくさんある。今回を機に上流と下流の交流が進んでいけば、非常におもしろい動きができるのではないかと思う。

揖保川の利水関係で最も重要な位置を占めている農業分野についても考えなければならない。流域の歴史・文化をどんなかたちで集約していくのか、それが河川整備計画に生かせるものかどうかということも考える必要がある。

### 3. 提言に盛り込む内容について

提言に盛り込む内容については、次回の分科会で審議することとなりました。

### 4. 次回の分科会について

住民意見把握のための集会の具体的な内容構成、提言に盛り込む内容を主な議題として、次回の分科会を開催することとなりました。実施時期は、地域住民からの事前意見募集後となりました。

### 5. 傍聴者からの発言

4名の傍聴者から次のような発言がありました。

平素、河川について思いついたことなど市民の声を聞くような場所、河川に対しての意見を聞くような場所をつくっていただければ、さらにいろいろな意見が出ると思う。こういう会議の場所で意見の発表ができる人はいいが、多少の意見はあっても発表するほどでもないし、という方がかなり多いと思う。市役所などに河川に対する意見を聞き、まとめるところを作っておいていただければ、このような会議ももっと実のあるものになる。

委員会で傍聴者に対する質問時間をもう少し取っていただきたいということが、第1点としてある。それから、河川の拡幅工事で山土を持ってきて盛土工事をしており、それによって雨や洪水のとき土が川の石を埋め、海に泥がたまり、藻が生えてくる。それまで石で浄化されていた水が浄化されなくなり、水質が問題になる。集落排水と水質の関係もあり、地域住民が安全に飲める水をいつまでも確保しなければいけないと思う。

揖保川流域委員会で方向づけしている住民の意見をよく聞き、住民が主体になったまちづくりを進めていこうという姿は、喜ばしいことと思う。今後、そういう方向で、間接的な意見、あるいは直接的な意見も聞きながらやっていっていただきたい。また、網干・余部地域で約2年間かけて住民へのアンケートを実施した結果、揖保川について自然歩道の問題、河川敷の利用

の問題、下流部のヘドロ浚渫の問題などいろいろな意見が出されている。今後、これらの意見について、自分たちでプランを立てていこうと考えているので、是非とも参考にしていただきたい。

揖保川の管轄として市や県とのタイアップはできているのか。河川に対しての協力を市の方にも呼びかけるなど、チームワークをとっていただきたい。また、以前は鳥が巣づくりをしている木が揖保川にもあったが、今はなくなっており、一部でもいいのでこういった木を残してほしい。それから、流域に住んでいる者だけでなく、ふるさとへ帰ってこられた方からも川が汚くなったという言葉がよく出てくるので、こういう点も考えてほしい。